

夏草が茂る草原をよく見ると家の土台が残っている。ビルは横転し普段目にするこ
とのない基礎面をさらし、波が突き抜け骨組みのみとなっている。橋脚は傾き橋桁は
行方不明・・・・・・・・。圧倒的な自然の力は嘗々と築いてきたものを根こそぎ持ち去
ったが人々はめげずに再建を誓う（写真-1）。

現在、高台移転や海岸
部の嵩上げ、商業施設化
などの復興事業が進め
られている。自然災害を
なくすことは出来ない
としても減災をめざし
た取り組みを応援した
い。

大川小学校跡を訪ね
るとすぐ横に山があっ
た。1分あれば安全地帯
に逃げ込めたのに74人
の小学生が犠牲となっ
てしまい、避難指示がで
きなかつた教師の無能
さに怒りを覚えた。

しかし、帰宅しインターネットで調べてみると小学校は津波避難所に指定されてお
り、津波は来ないと安心していただけられる。ハザードマップに示された危険地帯の
外周部で多くの方が亡くなったことを考えると指定者・作成者の責任は重大である。
島根県においても津波危険地帯を標高10mとしているハザードマップをみたことがあ
る。「何が起きるのか」を創造できる人を育てるため「防災教育」の必要性を感じた。
防災部会としても取り組みたい。



写真-1 女川町震災復興事業